

筑波大学を拠点としたマレーシア・日本国際工科院（MJIT）
との連携による水源水域調査研究の開始

平成26年5月22日、23日に筑波大学生命環境科学研究科を会場として、生命環境系内海真生准教授とMJIT側原啓文准教授らを中心にマレーシアの汚濁水源の調査研究の第1回研究会が筑波大学生命環境科学研究科を会場として開催された。本研究の目的は、マレーシアの汚濁湖沼を対象に現地を中心とした熱帯水域の水環境と水利用障害微生物とくにアオコの毒性、カビ臭などの異臭の実態・挙動を調査するとともに流域管理、水源管理の新たな方策を提言しようとするものです。

研究体制は、筑波大学とMJITの連携研究の実質化を踏まえ、MJIT側から4名の修士課程の学生を筑波大学に半年派遣、それぞれご専門の先生方に指導をうけつつ3年間で成果を出していく予定です。

研究グループメンバーとして南は長崎大学板山朋聡教授、徳島大学間世田英明准教授、松下潤中央大学教授兼芝浦工業大学客員教授、明星大学岩見徳雄准教授、筑波大学中村幸治教授、杉浦則夫特命教授、岩本浩二准教授（MJIT派遣予定者）、内海真生准教授、甲斐田直子助教、東洋大学清水和哉助教、北は秋田県立大学岡野邦宏助教であり、MJIT側は、メガット・ジョハリ・メガット教授、ズリアティ・ザカリア教授、後藤雅史教授、杉浦則夫教授、原啓文准教授に協力していただいています。

日本とマレーシアの実質的な一層の水環境保全・浄化の研究が推進・展開できることを期待します。



左上列から右（敬称略）：岡野邦宏、間世田英明、岩見徳雄、内海真生
左前列から右（敬称略）：清水和哉、板山朋聡、杉浦則夫、原啓文、甲斐田直子